

国際シンポジウム

「ジャパン・イメージ ―海外日本研究のための画像利用事情―」

開催日時 2008年6月23日(月) 9:30-12:30
会場 国際文化会館講堂
東京都港区六本木 5-11-16 電話 03-3470-4611
<http://www.i-house.or.jp/jp/ihj/access.html>
主催 北米日本研究資料調整協議会 (NCC)
協力 財団法人国際文化会館、財団法人渋沢栄一記念財団
助成 東芝国際交流財団、国際交流基金
ハーバード大学ライシャワー日本研究所

米国など海外の日本研究者が、研究・教育の目的で、日本の美術作品を始め、歴史資料、都市の光景や建物、ファッションや流行など諸々の画像の利用することが増えています。ところがその使用許諾を得ることに大変、難儀している状況があります。これには、日米間の著作権法の違い、言語の問題、距離の問題、慣習・手順等の違いなど様々な要因があります。この状況を改善し、より円滑に、適法的に、研究者が画像を利用できるようにするために、NCCでは画像資料使用特別委員会を設置し、日本側の関係者(出版者、美術館・博物館学芸員、司書等)のご協力を得て、海外研究者のために手引きを作ろうとしています。このシンポジウムは、そのための活動の一環として計画されています。

当日は、日本の画像が海外でどのように利用されているか、使用に際しどのような問題があるかについて、北米の日本研究者、日本研究司書、大学出版会編集者が来日して、講演・報告いたします。日本の図書館や美術館・博物館など資料に関わる方々、出版関係者にとっては、画像資料の国際的利用の現場を知る絶好の機会となります。ぜひご参加ください。

会議用語 日本語

参加無料 申込先着 70名まで受付

申込方法 Eメールで JapanImage0623@shibusawa.or.jp 宛お申込ください。お名前、ご所属、Eメールアドレスを記入し、参加申込である旨明記してください。

【参考ウェブサイト】

北米日本研究資料調整協議会 (NCC) [英語] <http://www.fas.harvard.edu/~ncc/>

NCC 画像資料使用特別委員会の目標 [日本語]

<http://www.fas.harvard.edu/~ncc/imageuse/GoalsImageUseJapanese.pdf>

「画像利用の課題」(『青淵』704号掲載 2007年11月)

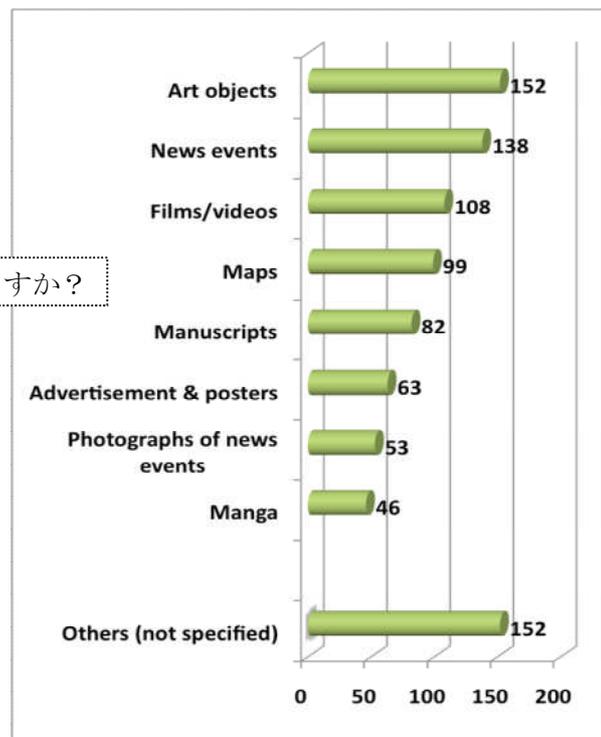
<http://www.shibusawa.or.jp/center/newsletter/704.html>

プログラム概要（予定）

- 北米日本研究にとっての日本画像資料の重要性（オハイオ州立大学図書館 モーリーン・ドノバン）
- 画像利用アンケート調査結果報告（フリア美術館図書館 吉村玲子、メリーランド大学図書館 坂口英子）
- 北米で画像利用許可を得るための手順（ハワイ大学出版会 パット・クロスビー）
- 北米と日本における出版事情の相違
 - 概観（ワシントン&リー大学 ロビン・ルブラン教授）
 - 日本研究者の経験（オハイオ州立大学 フィリップ・ブラウン教授、セインズベリー日本藝術研究所ニコル・ルマニエール所長、デューク大学アン・アリソン教授）

【参考：画像利用アンケート調査結果より】

どのような画像を利用しますか？



画像はどのように使いますか？

